

より良い投資の未来の実現に向けて

# インデックス投資 50年の歩み

インデックス投資が  
資産運用にもたらした恩恵





## Salim Ramji

Global head of  
iShares and index  
investments at  
BlackRock

# 今から50年前に誕生した 業界を席巻する二つの発明

今から50年前にゲームチェンジャーとなる二つの発明が誕生しました。一つは、シリコン・バレーで発表された商用マイクロチップ。もう一つは、そこからやや北上したサンフランシスコでブラックロックの前身企業により開発されたインデックス投資です<sup>1</sup>。

マイクロチップは発売当初から革新的な変化をもたらし、今では生活に欠かせない様々なデバイスの製造に不可欠な部品となりました。

一方、インデックス投資は時間をかけて着実に進化し、投資に伴う障壁を体系的に取り除くことで、資産運用業界に変化をもたらし、徐々にその革新さが認識されるようになっていきました。

50年を経た今も、インデックス投資にはさらなる発展の余地があるでしょう。なぜなら、インデックス・ファンドの残高が世界の公開市場の運用資産に占める割合はわずか10%程度と推定されており、さらに何億もの人々がインデックス投資のメリットを享受できると考えるからです<sup>2</sup>。



**インデックス・ファンドの残高が世界の公開市場の運用資産に占める割合はわずか10%程度と推定されます<sup>2</sup>。**

インデックス投資は、何千もの株式や債券などの個別証券を選定することから投資家を解放し、すべての投資家に理解しやすい戦略を提示することで、『投資は複雑で特定の人だけに与えられた選択肢』ではないことを証明しました。また、インデックス投資は、より手軽に、かつ低いコストで市場にアクセスし、リターンを創出する手段を投資家に提供するとともに、投資家が何を保有し、その対価がいくらであるのかといった透明性をも高めました。近年は、サステナブル指数とサステナブル指数連動型の上場投資信託（ETF）の登場により、サステナブル投資の選択肢が広がりました。これにより投資の質をめぐる新たな基準が市場に生まれ、実体経済を支えることにつながる、長期の投資が重視されるようになっていきます。

iシェアーズは世界中でインデックス投資の発展に貢献していると自負しています。ブラックロックでは、オフィスのエントランスや社員のPCのスクリーンセーバーに「より良い投資の未来の実現」を目指すと掲げています。これはiシェアーズのミッションを表したもので、より多くの人々が豊かな生活を送れる社会の実現に向けて尽力するというブラックロックの企業理念に基づいています。

大々的なスローガンを掲げていても、コミットメントの裏付けがなく実体を伴っていない企業も少なくありません。当レポートの目的は、「より良い投資の未来の実現」に対するiシェアーズのコミットメントを明確にお伝えすることです。我々のコミットメントは、一過性ではなく長期にわたって、投資をより手軽にかつ低コストにするとともに、サステナブル（持続性の高いもの）にし、レジリエント（ストレス耐性のあるもの）にすることです。ブラックロックは、この意欲的な目標を実現することが資産を委ねていただいている世界中の投資家の皆さまの希望と期待にお応えすることだと考えています。

**1**

より多くの人々にとって投資が身近な存在となることを目指します

**2**

より低コストな投資の実現を目指します

**3**

サステナブル投資はリターンの向上に資すると考えます

**4**

市場と経済のレジリエンスに寄与する商品の構築を目指します



# 01

## より多くの人々にとって投資が身近な存在となることを目指します

多くの人々が投資にストレスを感じる主な理由の一つに、投資を始める際の敷居の高さが挙げられるでしょう<sup>3</sup>。今から50年前、米国株投資をするうえでハードルとなっていたのは、高い固定手数料でした<sup>4</sup>。米国の中間所得者層にとって最も手軽な株式分散投資の手段であった投資信託でさえ、当時は多額の購入時手数料が必要とされていました。たとえば10,000米ドルを投資するには、保有期間中に発生する信託報酬などの他に700米ドルもの手数料を支払う必要がありました<sup>5</sup>。

我々のインデックス・ビジネスは、最初の20～30年間は主に退職後の資産を運用する年金基金へのサービスを通じて、間接的に個人投資家の資産形成を支援していました。しかし、約20年前にインデックス・ファンドと上場商品の両方の特徴を持つiシェアーズETFが誕生したことで状況は変わりました。iシェアーズETFの登場で、投資家は海外資産への投資が手軽にできるようになり、ウェルス・マネジメント会社はポートフォリオをより効率的にカスタマイズできるようになりました。そして個人投資家はETFを通じて、債券市場にもアクセスできるようになったのです。



**ブラックロックのインデックス商品を利用している投資家数は世界全体で1億人超に及ぶと推定されます<sup>9</sup>。**

ETFにより、あらゆるタイプの投資家が株式を購入するように手軽に市場全体の投資機会や複数の市場にアクセスすることが可能となりました。

iシェアーズETFの幅広い商品ラインナップは、比較的若い年代の人々が投資の一步を踏み出すための新たな選択肢ともなっています。投資を早く開始することは、長期にわたって資産を形成するうえで非常に重要なことです。例えば、現在ドイツでは100万人以上の人々が定額投資が可能なiシェアーズETFを組み入れたETFの積立プランに毎月拠出しています。最低拠出額はわずか1、2ユーロからで、平均の拠出額は月額約160ユーロです<sup>6</sup>。ブラジルでは昨年、国内の投資家がブラックロックのETFを通じて、初めて海外市場に投資できるようになりました。米国では現在スマートフォンを使い、取引手数料無料でiシェアーズETFを10米ドルと少額から購入することができます<sup>7</sup>。

現在、米国では推定2,200万人近くがiシェアーズETFを保有しています<sup>8</sup>。世界全体ではiシェアーズのETFやインデックス・ファンド、LifePath<sup>®</sup>（指数連動型のターゲット・デート・ファンド）、退職プランに採用されているiシェアーズ・インデックス・ファンドなどを通して、1億人以上の人々がブラックロックが提供するインデックス・ファンドやETFを利用していると推定されます<sup>9</sup>。ブラックロックは投資をより身近にし、ETFやインデックス・ファンドを利用する投資家を新たに数億人増やすことを目指しています。



**02**

**より低コストな投資の  
実現を目指します**



**2015年以降、iシェアーズはファンドの手数料を引き下げることによって、4億米ドル超に及ぶ投資家のコスト節減を実現しました<sup>14</sup>。**

複利効果は投資において非常に大きな効力をもたらす要因の一つです。概念は極めてシンプルかつ退屈であり、真新しい点はほとんどありません。つまり、理論上は運用リターンが高いほど、時間の経過とともに最終資産額が指数関数的に大きくなっていく、ということです<sup>10</sup>。一方で資産が増えることにより、手数料の負担も同様に重くなるという点にも留意が必要です。

高額なコストが、潜在的なリターンの重石となる可能性があることは念頭に置くべきです。例えば、アクティブ型米国大型株投資信託の平均経費率は0.85%と、同じく米国大型株に投資するiシェアーズ・コア S&P 500 ETFの0.03%を大幅に上回ります<sup>11</sup>。そのため、10,000米ドルをiシェアーズ・コア S&P 500 ETFに投資し、20年間にわたって保有した場合、ETFのリターンはアクティブ型米国大型株投資信託を10,000米ドル近く上回る可能性があります。その理由の1つには、手数料が運用収益に与える影響が挙げられます<sup>12</sup>注。

一般的にETFとインデックス・ファンドは伝統的なアクティブ型の投資信託よりも低コストであるため、国内外の株式や債券から、サステナブル投資などに代表される新たな投資分野、ロボティクスといったテーマ型投資など、様々な種類の分散投資をより低コストで手軽に行うことを可能にします。類似の投資対象を持つETFとアクティブ型の投資信託の間には依然として大きなコストの差があり、例えば、iシェアーズ・コアETFの平均経費率は、アクティブ型の米国投資信託の平均経費率を89%下回っています<sup>13</sup>注。

注：米国籍のETFと投資信託の一例であり、国内籍の類似商品では投資結果が異なる場合があります。過去の運用実績は将来の結果を保証するものではありません。

ブラックロックは、より多くの投資家がより低いコストで手軽に投資を行えるようにすることをコミットメントに掲げ実行してきました。2015年以降、iシェアーズはファンドの手数料を引き下げることによって、4億米ドル超に及ぶ投資家のコスト節減を実現しました<sup>14</sup>。



# 03

## サステナブル投資はリターンの向上に資すると考えます

サステナブル投資は長期的にリターンを向上させる可能性があると考えます。サステナブル投資の定義は様々ですが、投資先の環境、社会およびガバナンス（ESG）面の特性や気候リスクについての洞察は、健全な投資判断を行う上でますます重要になっています。

長きにわたり、サステナブル投資は、価値観に基づいた投資を行う機関投資家を主なクライアントとする一部のブティック型の運用会社が手掛けるニッチな分野でした。採用するアプローチの多くは極めて狭い投資対象に限定され、ごく少数の投資家の目的にしか合致しないものでした。一般的にこうした価値観に基づく投資は、優れたリターンの犠牲を余儀なくされるものだと考えられていました。

# “

**モーニングスターが調査対象とする26のESG指数連動型の株式インデックス・ファンドのうち25ファンドが時価総額加重型の株式インデックス・ファンドをアウトパフォームしました<sup>16</sup>。**

しかし、こうした状況は変わりつつあり、ETFとインデックス・ファンドがその変化を牽引しているとブラックロックは考えています。例えば、iシェアーズは、投資家がそれぞれの希望に沿って選択できるよう、サステナブル・インデックス商品の最も幅広いラインナップを提供しています。特定の企業やセクターを回避したい投資家、ESGに関してリーダーシップを発揮している企業のみを投資したいと考える投資家もいます。クリーン・エネルギーといった特定のテーマを希望する投資家もいれば、複合的にESGの要素を組み合わせたいと考える投資家もあり、ニーズはますます多様化しています<sup>15</sup>。

より多くの選択肢を投資家に提示することでブラックロックは、「サステナブル投資はリターンの犠牲を伴う」という概念に投資家とともに挑んでいます。2020年は、新型コロナウイルス感染拡大への懸念から多くの市場で混乱が生じた後、市場は急反発しました。モーニングスターによると2020年に同社の調査対象である26のESG指数連動型株式インデックス・ファンドのうち25ファンドが時価総額加重型の株式インデックス・ファンドをアウトパフォームしました<sup>16</sup>注。言うまでもなく、ほとんどの投資家が重視しているのは長期のパフォーマンスです。ESGのスコアが最高水準の企業は収益性が高く、経営に起因する株価急落リスクが比較的低い傾向にあり、一般的に複数の景気サイクルを乗り越える可能性が高いことが調査により明らかになっています<sup>17</sup>。

数年前、ブラックロックは世界中の投資家からETFを活用したサステナブル投資の拡充に対する要望をいただきました。それらは、サステナブル投資の選択肢の拡充や透明性の向上、手数料の最適化、リターンの向上等です。以来、投資家の需要を背景に、iシェアーズのサステナブル投資型ETFとインデックス・ファンドの運用資産残高は2018年末の100億米ドルから1,100億米ドルまで増加しました。現在、ブラックロックは約150のサステナブル型商品を提供しており、商品ラインナップ、運用資産残高ともに世界最大です<sup>18</sup>。ブラックロックは、引き続き世界中の様々な投資家がサステナビリティという新たな基準をポートフォリオに反映することができるよう、サステナブル投資の発展に貢献してまいります。

注：米国籍のESG指数連動型株式インデックス・ファンドの2020年単年の比較であり、国内籍の類似商品では投資結果が異なる場合があります。過去の運用実績は将来の結果を保証するものではありません。



**04**

**市場と経済のレジリエンスに  
寄与する商品の構築を目指します**

ETFは一般の投資家と大手機関投資家との格差を縮小し、公平な投資環境を提供する役割も果たしています。例えば、世界各国の政府や企業が発行する債券は、取引頻度が少なく、価格の透明性も低く、売買単位は大手の機関投資家しか購入できない水準です。債券ETFは、取引所で透明性のある価格に基づいて取引を行うという、簡便な取引手段をあらゆる投資家に提供することで、債券市場へのアクセスを開放しました。

2020年初めの新型コロナウイルスの感染拡大に起因する市場の混乱は、債券ETFのレジリエンスを試す最も重要なストレステストとなりました。そして、債券ETFはこのテストに見事に合格したとブラックロックは考えています。世界各国の規制当局はこの期間の事象について調査を行い、個別債券の取引が極めて難しい時期に、債券ETFは市場のショックを吸収する役割を果たしたと結論付けています。また、なかには「ETFの方がETFに組み入れられている原資産を取引するよりも容易であった」とした報告書もありました<sup>19</sup>。例えば、2020年に市場で最も流動性の高かった債券ETF上位10銘柄のうち8銘柄はiシェアーズ債券ETFでした。これらのETFは、必要に応じて市場へのエントリーやエグジットを可能にする手段を投資家に提供しました<sup>20</sup>。ブラックロックは常にETFを投資の質を向上させるテクノロジーとして捉えてきました。そして、iシェアーズETFは、市場の健全性維持に資するものであると自負しています。

# “

**米国大型株で構成されるS&P500指数は構成銘柄を平均25年間維持するのに対し、一般的な投資信託の保有期間は18カ月です<sup>21</sup>。**

iシェアーズのETFおよびインデックス・ファンドは長期投資に基づいて構築され、実体経済を支える一翼を担っていると我々は考えます。例えば、iシェアーズ・コア S&P 500 ETFが連動対象としているS&P500指数は構成銘柄を平均25年間維持するのに対し、一般的な投資信託の平均的な銘柄の保有期間は18カ月です<sup>21</sup>。投資家は投資先企業が指数の構成銘柄である限り、iシェアーズのETFやインデックス・ファンドを通じてそれらの企業に投資をしているため、企業の長期的な株価上昇の恩恵を享受できる可能性があります<sup>注</sup>。すなわち、投資家は長期的な成長機会へアクセスすることが可能となり、企業は長期的な資金を調達することができます。特に高頻度で売買を行う投資スタイルと比較すると、ETFやインデックス・ファンドは長期投資の資金提供を通して、企業が目先の利益にとらわれずに、戦略的な成長と雇用創出に注力することを支援する一助となっています。

注：長期投資は株価の上昇を保証するものではありません。また、過去の運用実績は将来の結果を保証するものではありません。





## iシェアーズ 2020年のハイライト

**1**

**市場アクセス**

**2,170億米ドル**

数百万人の投資家が米国内外のiシェアーズETFに1,850億米ドル、インデックス・ファンドに320億米ドルを投資し、2020年の新規流入額は2,170億米ドルを上回りました<sup>22</sup>。

**2**

**低コスト**

**89%**

iシェアーズ・コアETFの経費率は、アクティブ型の米国投資信託の平均経費率を89%下回っています<sup>23</sup>。

**3**

## サステナブル投資 1,100億米ドル

2020年、サステナブル投資型のiシェアーズETFとインデックス・ファンドの運用資産残高の合計は1,100億米ドル（ETF：810億米ドル／インデックス・ファンド：290億米ドル）に達しました。2年前は約100億米ドルだった運用資産残高は、過去1年で340億米ドルから3倍に増加しました。<sup>24</sup>

**4**

## レジリエンス 80%

2020年に世界で最も流動性の高かった債券ETF上位10銘柄のうち、8銘柄はiシェアーズ債券ETFでした<sup>25</sup>。

1 1971年に初のプログラム可能な汎用プロセッサとして市場に投入されたIntel 4004は、エンジニアが購入後に多様な電子デバイス上で、様々な機能に応じてカスタマイズし、ソフトウェアを実行するための「構成部品」となりました。Wells Fargoは1971年、サムソナイト年金基金向けに、ニューヨーク証券取引所に上場する全銘柄の均等加重ポートフォリオを構築し、1973年には、S&P 500連動のインデックス・ファンドを設定。1989年にWells Fargoは資産運用子会社を分離して、日興証券と合併会社を設立しました。1995年にWells Fargo Nikko Investment AdvisorsはBarclaysに売却され、2009年にブラックロックはiシェアーズETFの運用会社であるBarclays Global Investorsを買収。2 出所：米国および米国以外の投資信託 – SimfundおよびBroadridge、グローバルETF – ブラックロック、公募投信全体およびその他（マネー・アカウント、信託、パートナーシップなど） – McKinsey、株式時価総額 – World Federation of Exchanges Database、負債残高 – 国際決済銀行、米国の時価総額 – Nasdaq、NYSEおよびTMX Group Exchanges等。データはすべて2019年末時点。3 出所：ブラックロック、“People & Money” サーベイ。2019年11月から2020年1月までの期間に18の市場で実施、回答者数は26,814名。4 出所：ダラス連邦準備銀行、“The Rise of Stock Mutual Funds” 2001年1月/2月。5 4と同様。6 出所：ブラックロック、2020年12月時点およびextraETF Research ETF Retail Market Report、2020年11月時点。ドイツにおけるETF貯蓄プランの市場シェア53%に基づく。7 その他に、取引の買い呼値（買い手が支払ってもよいと考える価格）と売り呼値（売り手が受け取りたいと考える価格）の差（スプレッド）などの取引コストが適用されることがありますが、取引コストはETF間、また市況によって異なります。8 出所：Broadridge、ブラックロックの推計、2020年11月時点。iシェアーズETFを保有する世帯総数をベースに、1世帯が1.3口座を保有すると仮定して算出。インデックス・ファンドは除外。9 出所：ブラックロック、Broadridge、2020年11月30日時点。Blackrock FP&A、2020年9月30日時点の機関投資家のインデックス運用資産残高。フォーチュン100社の20%がブラックロックのターゲット・デート・ファンドを採用しているとの推定ベースで算出、2019年6月現在。ブラックロックのLifepath確定拠出年金の顧客、2020年12月31日時点。当該ファンドの様々な顧客のウェブサイトから入手した、公表されている平均「加入者数」の統計。米国のiシェアーズのETFまたはインデックス・ファンド利用者は、米国で当該商品を保有する口座の銘柄別総数を使用し、1世帯当たり、1利用者当たりの口座数および1口座当たりの保有銘柄数の内部推計に基づいて算出。インデックス運用をマニエーターとする機関投資家顧客（ETFを除く）の推計は、ブラックロックの運用資産残高および全口座の利用者数に基づきます。10 1,000米ドルを投資し、20年にわたって年間6%（2020年1月4日時点のモーニングスターによるS&P 500の過去20年間の年率リターンは6.6%）資産が増加すると仮定。初年度に投資家が得る利益は60米ドル（1,000米ドルの6%）ですが、20年目には6%のリターンが182米ドル（3,026米ドルの6%）になります。11 出所：モーニングスター、2020年12月31日時点。モーニングスターの「アクティブ型米国株大型ブレンド」カテゴリーの平均値（ファンドの戦略の重複を回避するため最も古いシェアクラスを用い、同カテゴリーのすべてのアクティブ型ファンドの目論見書における正味経費率を均等加重平均で算出）。12 出所：ブラックロック、モーニングスター。2000年5月22日から2020年12月31日までの20年間iシェアーズ・コア S&P 500 ETF (IVV) に10,000米ドルを投資したと仮定した場合のリターンと、モーニングスターの「アクティブ型米国株大型ブレンド」カテゴリーの平均値（同カテゴリーのすべてのアクティブ型ファンドの均等加重平均リターン）を使用。IVVは同期間中に39,611米ドルに増加し、「アクティブ型米国株大型ブレンド」カテゴリーは29,696米ドルに増加すると想定。各ファンドの資産額は運用報酬その他のファンドの費用控除後。運用成績は配当金の再投資とキャピタル・ゲインを想定し、他の期間では異なる結果となる可能性があります。掲載されている運用成績は過去の実績であり、将来の結果を保証するものではありません。リターンと投資元本は変動することがあり、投資家の受益証券は売却または償還する際に当初取得原価を上回る場合も、下回る場合もあります。現在の運用成績は掲載した運用成績を下回っている場合も、上回っている場合もあります。標準的な運用成績と、現在から直近の月末までの運用成績のデータについてはこちらをご覧ください。13 出所：ブラックロックおよびモーニングスター、2020年12月31日時点。2020年12月31日時点における、すべての米国iシェアーズ・コアETFの目論見書における平均正味経費率（0.094%）と米国で販売されているオープンエンド型アクティブ・ファンドの目論見書に基づく平均正味経費率（0.84%）を比較。14 出所：ブラックロック、2020年12月31日時点。累積コスト削減額は2015年から2020年までの期間について、ファンドの以前の経費率と新しい経費率の差に、引き下げ時点におけるファンドの運用資産残高を乗じて算出してあり、同期間中の複利効果を考慮していません。15 出所：ブラックロック、2020年12月31日時点。iシェアーズは世界で約150銘柄のETFとインデックス・ファンドを運用しているのに対し、最も近い競合他社が運用する銘柄数は84銘柄と32銘柄です。16 出所：モーニングスター、“Sustainable Equity Funds Outperform Traditional Peers in 2020” 2021年1月8日付レポート。レポートに掲載されているデータ・ソースの運用成績 – モーニングスター・ダイレクト。2020年12月31日時点のデータ。17 出所：Guido Giese他、“Foundations of ESG Investing: How ESG Affects Equity Valuation, Risk, and Performance” The Journal of Portfolio Management（2019年7月）は、MSCIワールド指数の構成企業のうち、MSCI ESGレーティングが低い企業と高い企業を2007年1月から2017年5月まで比較することにより、ESGの検討が企業のバリュエーションと業績、収益性、「テール・リスク」またはシステミック・リスクへのエクスポージャーにどの程度影響するかを調査しました。MSCIのレポート“Is ESG Investing a Price Bubble? Probably Not”（2020年12月9日）は、2013年5月31日から2020年11月20日までの期間にESG格付けの高い企業が均等加重ベンチマークをアウトパフォームした主な理由は、収益成長率と再投資利益率が上回ったことであることを明らかにしています。過去の運用実績は将来の結果を保証するものではありません。18 出所：ブラックロック、資産残高およびファンド数、2020年12月31日時点。iシェアーズは世界で150銘柄のサステナブル型のETFとインデックス・ファンドを運用しているのに対し、最も近い競合他社の運用銘柄数は84銘柄と32銘柄です。19 出所：イングランド銀行、“Interim Financial Stability Report” 2020年5月。https://www.bankofengland.co.uk/-/media/boe/files/financial-stability-report/2020/may-2020.pdf 20 出所：ブラックロック、ブルームバーグ、2020年12月31日時点。全世界のすべての債券ETFの2020年における1日当たり平均取引高に基づき算出。流動性は、1日当たりの取引高に基づく。21 出所：S&Pダウ・ジョーンズ・インデックス（2020年12月17日時点）、モーニングスター。平均値は、S&P 500指数の年間の片道の売買回転率から算出。1992～2019年の回転率は3.9%で、25年間の平均保有期間に相当。モーニングスターによる、米国株式ファンドの回転率は65%で、約1.5年に相当（2020年12月31日時点）。22 出所：全世界のiシェアーズETF – ブラックロックおよびFP&A、2020年12月31日時点。米国籍投資信託 – ISS Market Intelligence Simfund。米国籍以外の投資信託 – Broadridge FundFile。米国以外のデータには米国籍ファンドとクロスボーダーファンドの両方が含まれ、ブラックロックのインデックス型ファンドのみを含みます。2020年11月30日時点。23 出所：ブラックロックおよびモーニングスター（2020年12月31日時点）。2020年12月31日時点における米国のすべてのiシェアーズ・コアETFの目論見書における平均正味経費率（0.094%）と、米国で販売されているオープンエンド型アクティブ・ファンドの目論見書における平均正味経費率（0.84%）を比較。24 出所：ブラックロック、2020年12月31日時点。25 出所：ブラックロック、ブルームバーグ、2020年12月31日時点。全世界のすべての債券ETFの2020年における1日当たり平均取引高に基づき算出。流動性は、1日当たりの取引高に基づく。

## 重要事項

記載内容は、ブラックロック・グループ(以下、ブラックロック)が作成した英語版レポートを基に、ブラックロック・ジャパン株式会社(以下、弊社)が翻訳・編集したものです。記載内容は、情報提供を目的として作成されたものであり、特定の金融商品取引の勧誘を目的とするものではありません。また、米ドル建資産を中心としたグローバル投資において、主に米ドル建で各資産の評価を行った上で書かれたものです。日本の投資家が円から、外貨建資産に投資を行う場合に受ける為替変動の影響は考慮されていないことにご注意の上、参考情報としてご覧ください。記載内容は、日本に居住する個人投資家にはあてはまらない場合がある旨にご留意ください。また、日本のお客様の知識、経験、リスク許容度、財産の状況及び金融商品取引契約を締結する目的等を勘案したものではありません。記載内容は、ブラックロック及び弊社が信頼できると判断した資料・データ等により作成しましたが、その正確性および完全性について保証するものではありません。また、記載内容の各種情報は過去のもの又は見通しであり、今後の運用成果を保証するものではなく、本情報を利用したことによって生じた損失等について、ブラックロック及び弊社はその責任を負うものではありません。記載内容の市況や見通しは作成日現在のブラックロックの見解であり、今後の経済動向や市場環境の変化、あるいは金融取引手法の多様化に伴う変化に対応し、予告なく変更される可能性があります。また、ブラックロックの見解、あるいはブラックロックが設定・運用するファンドにおける投資判断と必ずしも一致するものではありません。

## リスクについて

iシェアーズETFは、投資元本および投資元本からの収益の確保が保証されているものではありません。iシェアーズETFの価格は、連動を目標とする指数、組入有価証券の価格変動、金利および為替の変動等ならびにiシェアーズETFの発行者及び組入有価証券の発行者の経営・財務状況の変化ならびにそれらに関する外部評価の変化等により変動し、投資者は損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。特定の地域や分野に特化した投資では、一般に変動が大きくなり、より高い地理的リスクやアセットクラスのリスクにさらされます。信用取引等のお取引をされる場合は、保証金または証拠金以上のお取引が可能であるため、保証金または証拠金を超える大きな損失を被ることがあります。

## 手数料・費用等について

東証上場iシェアーズETFについて：東京証券取引所に上場しているiシェアーズETFを売買する際の手数料は取扱いの金融商品取引業者（証券会社）等によって定められます。詳しくは証券会社までお問い合わせください。ETFの保有期間中は運用管理費用等を間接的にご負担いただきます。

海外上場iシェアーズETFについて：海外の証券取引所に上場しているiシェアーズETFの売買の際の手数料は取扱い金融商品取引業者（証券会社）によって定められます。売買にあたっては、前述の手数料の他に、外国金融商品市場等における売買手数料および公租公課その他の賦課金が発生することがあります。（現地法制度等により定められるため記載できません。）売買にあたり、円貨と外貨、または異なる外貨間での交換をする際には、それぞれの証券会社で別途定められた手数料が課せられることがあります。ETFの保有期間中は運用管理費用等を間接的にご負担いただきます。

保有時の費用の率は個別のiシェアーズETFによって異なります。また運用状況や保有期間等に応じて異なることからその上限額を示すことはできません。個別のiシェアーズETFに関する情報、運用報酬・管理報酬等については、取扱い金融商品取引業者（証券会社）、又はiシェアーズETFに関するウェブサイトにてご確認ください。

※iシェアーズETFは、本資料で言及されている指数提供会社が出資、保証または発行を行うものではありません。また、これらの指数提供会社は、当ファンドへの投資の妥当性に関していかなる表明も行いません。ブラックロックは上記の指数提供会社の関連会社ではありません。本資料で言及されている指数の著作権その他一切の知的財産権は、各指数提供会社に帰属します。

©2021 BlackRock 無断複写・転載を禁じます。iShares (® iシェアーズ®) およびBlackRock (® ブラックロック®) はブラックロック・インクおよび米国その他の地域におけるその子会社の登録商標です。他のすべての商標、サービスマーク、または登録商標はそれぞれの所有者に帰属します。本資料の著作権は、ブラックロック・ジャパン株式会社に帰属し、全部または一部分であってもこれを複製・転用することは社内用、社外用を問わず許諾されていません。本資料で言及されている指数の著作権その他一切の知的財産権は、指数毎の提供会社に帰属します。指数提供会社は、iシェアーズETFのいずれに関しても出資、保証、発行、販売、または販売促進を行うものではなく、またiシェアーズETFへの投資の妥当性についていかなる表明も行いません。ブラックロックは上記の指数提供会社の関連会社ではありません。

## お問い合わせ先

ブラックロック・ジャパン株式会社

金融商品取引業者関東財務局長（金商）第375号加入協会／一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会、日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

ホームページ：<http://www.blackrock.com/jp/>

〒100-8217 東京都千代田区丸の内一丁目8番3号丸の内トラストタワー本館